

鳥インフルエンザ(H5N1)



- ・ H5N1亜型の鳥インフルエンザウイルスを病原体とする鳥インフルエンザは、東南アジアを中心に家きん(ニワトリ、アヒルなど)で発生しています。人が感染した場合には、重篤な症状となることが多く、世界保健機関(WHO)によると、2003年11月から2011年11月15日までに世界15カ国で570人(死亡者335人)の発症者が報告されています。
- ・ 今年も、新たな患者がバングラディシュ、カンボジア、エジプト、インドネシアで確認されています。

○発生地域:

東南アジアを中心に、中東・ヨーロッパ・アフリカの一部地域など。

○感染要因:

感染した家きんや臓器、体液、糞などとの濃厚な接触。

○主な症状:

1～10日(多くは2～5日)の潜伏期間ののち、発熱、呼吸器症状、下痢、多臓器不全など。

○感染予防:

家きんとの接触を避け、むやみに触らない。生きたニワトリやアヒルなどが売られている市場や養鶏場にむやみに近寄らない。手洗いうがいの実施(特に発生国では徹底する)。

海外では、動物と距離をとろう。

Please Keep Your Distance

※もっと詳しく知りたい方は

厚生労働省「鳥インフルエンザに関する情報」

→<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou02/index.html>

FORTH/厚生労働省検疫所「鳥インフルエンザ(H5N1)」

→<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name54.html>

国立感染症研究所感染症情報センター「疾患別情報:鳥インフルエンザ」

→http://idsc.nih.gov.jp/disease/avian_influenza/index.html